

大学入学共通テストの探求 ⑦

2021年度第2日程地理B第1・2問の分析を通して

担当 中村秀司

一 第1問

「世界の自然環境と災害」から6問が出題された。2パート構成で、Aパートでは土砂災害と人間活動、Bパートでは森林の分布と災害について資料を読み取って理由を考察する出題であった。探究活動や特別授業の場面設定で大問が展開された。配点20点。

ピックアップ問題 問3 3

第1問の問3は、紀元前四千年前から現在までの時間軸における黄河の土砂流出量の変化から、その背景と影響の論理的理解を問う設問である。カード文の前後の関係の論理的正しさを判断させている。具体的な事象を暗記するのではなく、「なぜ、そうなるのか」も含めて推察することが求められた。

第2問

「産業と貿易」から6問が出題された。第2問は問1が都道府県別の産業別就業者数、問2が農業

立地論、問3は市場からの農地別の距離、問4は産業立地、問5は輸出依存度、問6は訪日観光客の旅行消費額を問う設問である。本大問でも第1日程と同様に、立地論をモデル化した問題が出題されており、今後も理論やモデルの理解を問う出題が予想される。配点20点。

ピックアップ問題 問3 9

第2問の問3は、問1と同様に各都道府県の人口数や距離と他の統計要素との相関関係を読み取り、分布の規則性と傾向性を見出す設問である。農業の種類によって、市場からの距離に違いがあるとする問2とも関連している。問2では原理原則の理解を踏まえて、問3では現実の立地傾向を読み取って、農業の特性から判断し、野菜は市場との近接性が求められることを判断する。論理的思考力とともに、散布図から相関関係の読み取りを試す良問である。

二 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したものを要約して報告する。

宅島（広島大・院）第1問Aパートでは土砂災害について、地形（問1）、気候（問2）、人間活動（問3）という視点から構成されている。このような探究の視点は、普段の授業づくりにおいても参考になるだろう。これらの視点を有機的に結びつけた探究への発展もできる。

蒼下（下関南高校）第1問の多くは授業で学んだことを基に考察する基本的な問いであるが、問3と問6では資料を基に背景等を推論的に考察させる応用的な出題もあり、バランスがよい。第2問は系統的な出題構成で、問2はモデルとなる条件に合わせて推論的に考察する力を問う等、応用的な思考力を求めている。

井上（川崎高校）第2問問6は国ごとの訪日観光客の差異を問う問題。観光人数が多く「爆買い」が目立つ中国。アメリカ合衆国は日本から遠距離にあり、客数は少ないが長期滞在する傾向を読み取る。データから来日目的の違いや滞在地の違いなど様々な授業へ発

展させられる。

山口（上五島高校）第1問問6では、地理で学んだ知識や概念を森林火災の要因分析、人間生活との関係性へ応用する場面を想定した問題である。しかし、常識的な知識や文脈で解答できる可能性もあるため、より地理的な文脈で解答させるように深化していく必要を感じる。

首藤（広島井口高校）第2問問1は都道府県別人口と就業者数の散布図から、各産業のグラフを選ばせる設問。小売業が人口に比例すること、農林業は大都市で少なくなるなど、産業の各内容を活用しつつ、資料の特徴を読み取って組合せを考察することが求められる良問。

後藤（佐倉高校）第1問は、会話文や内容をまとめたカードを多用し、生徒の主體的な学習活動を演出しながら作問されており、ここでも新学習指導要領を意識した出題が見られた。特に問6の森林火災は、地球規模の課題であり意義深い。対して第2問は、図表を多用して地理的思考力を問う傾向が顕著であった。

（鳥取県立鳥取西高等学校）